

手練

S H U R E N

第 16 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会



表紙

会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

目 次

■文化財屋根葺士養成研修 第24期生 前期研修 始まる	2
●講師からのメッセージ 京都女子大学 客員教授 齋藤 英俊	
公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 加藤 修治	
京都府文化財保護課 小宮 睦	
高橋事務所 高橋 弘次	
office 萬瑠夢 代表 村田 信夫	
■令和2年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 始まる	10
■主任文化財屋根葺師 認定証 更新講習会 実施	11
■令和2年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 終わる	12
■令和2年度 檜皮採取技術査定会	12
■令和2年度 茅葺中級研修	13
■令和2年度 茅葺きフォーラム 開催	16
■準会員 名簿	22
■あとがき	

文化財屋根葺土養成研修 第24期生 前期研修 始まる

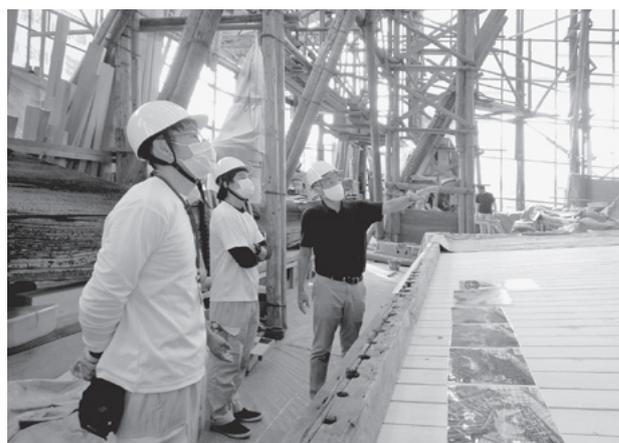
新型コロナウイルスの感染状況から、実施を見合わせていた養成研修を9月より開始いたしました。期間の短縮や来年度への延期も検討いたしました。長きにわたり継続されてきた養成研修事業の歴史を途絶えることなく続けていくこと、また、このような状況においても「人を育てる事業」は止めてはならないとの強い決意のもと、実施を決定しました。

研修生をはじめ、研修に携わるスタッフ一同が、感染予防対策をしっかりと取り、例年通りの研修内容を実施します。講師の皆様や指導員の方々には例年ない対応を取っていただくことになり、気苦労やお手数をお掛けしながらの実施となりますが、当会の根幹となる事業となりますので、皆様のご協力とご理解を頂きながら、前期研修の終了まで進めていきたいと思ひます。

研修生については、このような状況下でも臆することなく、目の前の仕事に集中し、技術研鑽に励んでいただきたいと思ひます。



材料整形／檜皮の拵え



現地実習／建築史演習(上)本隆寺・(下)清水寺 三重塔



座学／日本建築史



実習／檜皮採取

●研修生の紹介と抱負

本来であれば開講式の中で皆様にご紹介するところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年度は開講式を見送りました。そこで本号の紙面をお借りし、

ご紹介をさせていただきます。

2年間お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

橋本 浩太郎 (26歳)
(株)河村社寺工殿社
経験年数3年



父親の紹介がきっかけでこの業界に飛び込みました。最初は右も左も分からず、戸惑う毎日でしたが、一緒に仕事をしている先輩の姿に憧れ、「あんな風になりたい」そう考えるようになってから、この道で真剣にやっいていこうと強く思うようになりました。2年間の研修を最後までやり遂げたいと思っています。

山田 勇生 (22歳)
(株)児島工務店
経験年数3年



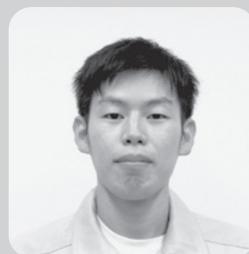
祖父がタイル職人だったこともあり、その仕事を見ながら「カッコいい職人になりたい」そう思い、この道を志しました。まだまだ分からない事は多いですが、研修を通じて様々なことを身に着けたいと思っています。

品川 琉心 (21歳)
田中社寺(株)
経験年数2年



小さい頃に出会った知り合いの大工さんの雰囲気憧れ、大工を目指していました。高校の時に、建築関係の求人を探していましたが、担任の先生から現在の会社を紹介していただき、興味を持ったことがきっかけで今に至ります。想像していた仕事とは正直違いましたが、自然を生かし技術を残していくという仕事にやりがいを感じています。

川瀬 皆人 (21歳)
田中社寺(株)
経験年数1年



中学生の時に多賀大社の屋根をみて「こんな屋根を葺いてみたい」そう思い、この道を目指しました。就職を考える時、中学・高校と剣道をやっていたので、初めは消防士を目指していましたが、他の人とは違う仕事をしてみたかったということもあり、探しているうちに屋根葺士という仕事を見つけました。そして再び多賀大社を見に行ったとき、その美しい屋根に、雷が落ちたように感動しました。今は、この仕事がとても楽しいです。そしていつかは自分が受けた感動を他の人にも与えられるような屋根を葺きたいと思っています。

●講師からのメッセージ

[講師]
京都女子大学客員教授
齋藤 英俊



講義項目：日本建築史
内 容：「桂離宮の意匠と文化的背景」

[講師から]

去る9月28日と10月14日の2回に分けて行いました私の講義に関しては、長時間にも関わらず、熱心に受講していただき有り難うございました。

私が桂離宮の建築の文化的背景と意匠に関して詳細に紹介した意図は、建築は単にそのスケールや形の良さ、豪華さだけで評価するのではなく、その建物がなぜそのような形やデザインなのかを考えることが大事だと思うからです。そのような建物を生んだ背景としての時代や文化を知れば、その建物を正しく鑑賞し、その建物の価値を深く知ることができます。

皆さんは、これから一般の人が近寄れないような歴史的に価値の高い建物を間近にして仕事をする機会が多くなると思います。皆さんが担当する建物を単に仕事場として考えるのではなく、そうした建物が生まれた時代や文化的な背景を学べば、仕事が一層楽しく、やり甲斐を感じられるものになると確信しています。

柿葺や檜皮葺の伝統の技が構成要素の一つとなっている「伝統建築工匠の技」が、この12月にUNESCO無形文化遺産に登録されることが決まりました。皆さんが背負っているのは、世界に類例のない貴重で素晴らしい人類の宝です。20年、30年後には皆さんが中心となって、日本が世界に誇る技を伝えていくことになります。皆さんの研鑽と活躍を期待しています。



[講師]
(公財)文化財建造物保存技術協会
加藤 修治



講義項目：日本建築の構造と仕様
内 容：建築計画／東西南北（磁北、真北）、
水平・垂直、寸法、平面計画など
建築構造／基礎、壁、屋根、耐震など
事例紹介／安楽時八角三重塔（年輪年代法）、
姫路城大天守保存修理、平城宮大
極殿正殿

[講師から]

先日、全国社寺等屋根工事技術保存会から依頼があり、養成研修で若手と話す機会があった。阪神・淡路大震災の話をしようとしたところ、まだ生まれていないとの返事。まだ20代の職人であった。

現在、第一線で屋根葺をしてくれている職人さんにも若い時があった。10代、20代だった職人さんが、今も屋根葺の仕事が続けてくれている。久しぶりに会うと声を掛けてくれて、むかし話に花が咲く。

文化財建造物の修理は、20年、30年するとまた次の修理が巡ってくる、一度では終わらない。職人さんに聞くと、前回の修理では、「ここをこうした。ああした。」という話が出てくる、経験がモノを言う。いくら本で勉強しても、実際にさわらないと分からないことが多くある。今回の研修生と話している時にも、「内はこう納める。」というような、経験しないと出てこない言葉ができて頼もしく感じた。

檜皮葺・柿葺・茅葺等の仕事は根気がいる。体には気をつけて永く続けて欲しい。年号が令和に変わり、もうすぐ3年目が来る。これからどんな時代がくるかわからないが、文化財屋根葺士の仕事は変わらずある。自分が関わった建物には思いがこもる、百年、千年先に残っていく。次の世代に受け継ぐため、屋根葺士として、未永くこの仕事を続けていってくださることを願う。



●講師からのメッセージ

[講師]
京都府文化財保護課
小宮 睦



講義項目：建築史演習

内 容：京都府における文化財建造物の概要
保存修理の基本的な考え方
保存修理の実際（耐震補強工事について等）
【現地実習】清水寺／伽藍配置の変遷、組手、
耐震補強や塗装工事
（彩色）について
本隆寺／半解体工事の実際

[講師から]

先日の研修では、屋根に限らず文化財建造物の修理がどのように行われているかという全般的なお話をいたしました。日本の建物において屋根が占める割合は、それは雨風を防ぐという機能から美的な要素までも含めて、非常に大きなものがあると思います。建築を支える技術はいろいろありますが、屋根がないと建物が完結しないのは当たり前のことです。皆さんはその屋根を葺き上げる技術、技能を習得すべくこの道を選ばれたわけですが、是非ともいろいろな建物の修理を経験され、実績を積み、誇りをもって、伝統建築の継承の一翼を担っていただきたいと強く願っています。



[講師]
高橋事務所
高橋 弘次

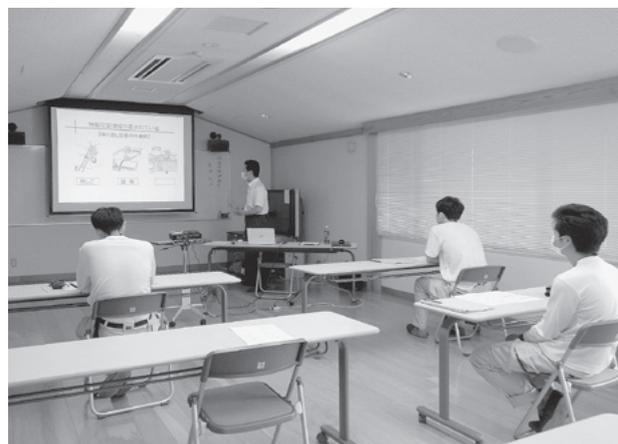
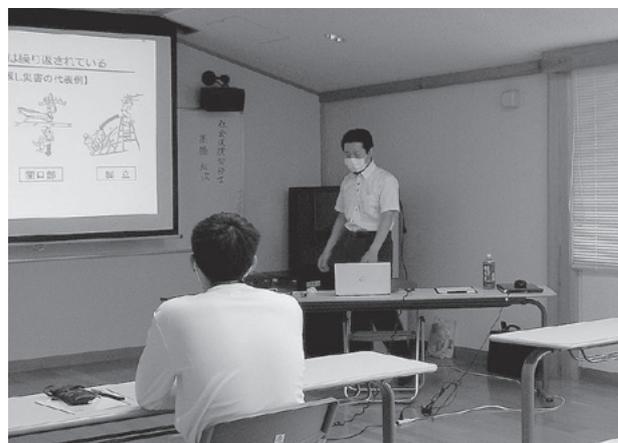


講義科目：労働安全衛生法

内 容：法律の立法主旨と歴史的背景
労働災害の発生メカニズムとその防止策
災害事例の紹介とその発生時の対応
熱中症の予防と対処策

[講師から]

法律の条文を単に説明するだけでなく、現場の実態に即した内容で講義を致しました。特に災害事例や災害発生時の対応の話については研修生の皆さんも熱心に聴講してくれました。今後も安全には十分留意し、有意義な研修を行っていただきたいと思います。



●講師からのメッセージ

[講師]
office 萬瑠夢代表
村田 信夫



講義項目：文化財保護法

内 容：文化財保護制度の概要

文化財保護の体系

文化財保護の制度（設立までの経緯と改正の歴史）

伝統的建造物群保存地区について

文化的景観（重要文化的景観）について

[担当から]

村田先生には養成研修の講義のみならず、当会が実施する多くの研修事業でご指導をいただいております。

本講義では、文化財保護法が設立された主旨や歴史的背景、時代とともに保護の対象や内容が変遷してきたこと、また実際にご自身が指導された建造物や伝建地区の事例も紹介いただき、幅広い視点で講義をいただきました。対話形式で講義を進められ、研修生にとっても、よ

り理解を深められる内容になったのではと思います。「怪我に気を付けて、辞めずに続けてほしい」という先生の言葉に、若手職人に対する優しさと大きな期待を感じました。



●現場実習の風景と 指導員からのお言葉

屋根葺土養成研修事業では講義などの座学と実技の実習を組み合わせ進めております。研修センターでは講義と材料整形実習を主に行っていますが、実際の修理現場を活用した「現場実習」を研修生派遣事業所が施工する保存修理現場で実施しております。

研修期間●令和2年11月2日（月）～11月6日（金）

研修内容●檜皮屋根撤去工事及び実測・調査実習

指導員●寒河江 清人（田中社寺株式会社）

「生きた現場」での実習は研修生にとっても貴重な経験です。所有者の皆様を始め、設計監理者ほか皆様方のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。



【指導員からメッセージ】

今回の実習では屋根の実測や面積の算出方法、解体手順と納まりの確認方法を指導いたしました。

研修生それぞれに屋根図面を渡し、各々実測図面を作成してもらいました。4名とも熱心に取り組んでおり、質問や確認も多く、受講態度は良好でした。今後も成長していってくれると思うので、個々の性格、特徴を生かし指導を続けていっていただきたいと思います。



●現場実習の風景と 指導員からのお言葉

研修期間●令和2年11月9日(月)～11月13日(金)

研修内容●屋根葺実習(柿葺)

指導員●道繁 康(株式会社児島工務店)



[指導員からメッセージ]

水切銅板から上目板、平葺までの屋根葺工事の基本的な施工を指導いたしました。研修生それぞれに技術を習得しようという強い意欲が見られ、指導に対しても熱心に耳を傾け、吸収しようとする姿勢が多く見られました。技術習得には時間がかかりますが、今後も丁寧に指導を続けていただきたいと思います



●現場実習の風景と 指導員からのお言葉

研修期間●令和2年11月16日(月)～11月20日(金)

研修内容●屋根葺実習(檜皮葺)

指導員●河村 雅史(株式会社河村社寺工殿社)



[指導員からメッセージ]

境内社の檜皮葺実習を行いました。小さな建物でしたので仮設から解体、実測・調査、そして屋根葺まで一連の工程を実習することができました。4人とも基本的な技能は備わってきているのですが、使用する道具の準備や次の工程を考えた作業の組み立てなど、落ち着いて作業を進められるようにしていきます。また、葺ムラができると簡単に皮を削ったりする部分も見受けられました。皮の並べ方、釘の打ち方、指先から伝わる感覚によって、綺麗に葺き上げることが基本ですので、しっかりと身に着けるようにしてください。期間中、研修生は熱心に取り組んでおりました。さらに研鑽を積んでいただき、今後の技術向上に期待しています。

令和2年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 始まる

令和2年度の檜皮採取者中級者研修は、新型コロナウイルス感染予防対策として、『新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン』『新型コロナウイルス感染予防実施マニュアル』を作成し、9月14日より開始しました。

本年度は、大又国有林、城山国有林、三上山国有林、賤母国有林、京北市有林、増位山国有林、妙法山国有林、地獄谷国有林にて研修を予定しています。1クール2週間で入山し、限られた時間の中での作業になります。

コロナ禍でまだまだ不安な日々が続きますが、技術をつなぐことの大切さを改めて感じ、研修を進めていきます。研修林をご提供くださった各森林管理署の皆様、山林所有者の皆様、各森林の関係者の皆様に感謝申し上げます。今後ともご理解とご協力をお願い致します。



歩道整備／賤母国有林



檜皮採取／賤母国有林



檜皮採取／大又国有林



檜皮切断／大又国有林

主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 実施

期 日 ● 令和2年11月13日(金)
会 場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

今年度は、京都女子大学 家政学部より鶴岡典慶教授を講師にお迎えし、更新講習会を行いました。多くの更新者が参加し、檜皮葺14名、茅葺1名の更新を行いました。

認定から3年毎の講習ですが、本年は更新が始まってから初めて、大規模感染症(Covid-19)を原因とする講習会に参加できない人員が出ることとなりました。その大変な社会状況の中でも、更新者は、鶴岡様の講義に熱心に耳を傾け、二重軒付の変遷や若手育成について意見

を出し合い、議論を交わしていました。また、若手育成についての課題や素屋根がある状態での施工量が思っていたより伸びていないという指摘について、各参加者よりいろいろな反応が見受けられました。

特に今回、「更新講習会に参加している認定証保持者は、現場の代理人であり施工を管理する立場であるという意識を持たなければならない、ある意味職人作業をしているだけではやっていけない時代である」という認識を鶴岡様から更新者に問いかけられているものであったように思います。

保存会としても上記を含めたさらなる意識向上や技能向上のため、講習会や研修を重ね、若手育成や意識改革に力を注いでいく所存です。



鶴岡典慶教授による講義



感染症拡大防止対策を考慮しながら実施した講習会

●更新講習会を受講して

今までは、現場の納まりや自身の技術向上等に意識を持ちがちでしたが、現場での立場、現場代理人や主任技術者(監理技術者)としての役割について、また発注者、所有者さんとの現場工事の調整、主任技術者として工程管理や協力業者等の調整管理、安全面などについての大切さを再認識致しました。

現場修理の考え方では、軒付けを例に挙げさせていただき、二重軒の上・下の割合や軒なげなど固定観念にとらわれず、解体時の調査、観察を十分に行いながら寸法や方針を決めるなど、鶴岡先生にはわかり

更新者 村上 章浩

やすく説明していただきました。

技能の諸問題については、他事業者さんの意見もあり、若い新人をどのタイミングで屋根葺に入れるかなど、自分たちが習った時とは意識の違いが出てきていると感じましたが、共に同じ思いで取り組んでいるのだと理解でき良かったと思いました。

今回の講習を参考に、今後の現場での作業や管理、若い者への教育や指導に生かしていきたいと思えます。

令和2年度 檜皮採取者(原皮師) 中級研修 終わる

檜皮採取者(原皮師)の技術力向上の為、今年度も全国の国有林、市有林に入山し、12クルールの研修を行いました。9月14日の賤母国有林を皮切りに、12月18日妙法山国有林での研修を最後に全日程を無事終了しました。研修に参加した中級研修生22名は、2～3クルール

お互いを高め合いながら技術の向上に取り組みました。

最後になりましたが、研修林をご提供くださった国有林関係者の皆様をはじめ、採取事業に関わった全ての皆様に、深く感謝申し上げます。



京都市有林



京都市有林

令和2年度 檜皮採取技術査定会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大、兵庫県、京都府、大阪府に緊急事態宣言が発出、延長の為、1月18日～19日から2月25日～26日に延期していた檜皮採取技術査定会を中止しました。研修生にとって年に一度の技術を披露する場がなくなることは、大変残念に思います。気持ちを切り替え、技術向上に取り組み、来年の査定会で、

力を存分に発揮してください。

最後になりましたが、兵庫森林管理署、増位山国有林関係者の皆様、査定会に関わる全ての皆様の日程変更など迅速な対応、深く感謝申し上げます。

令和2年度 茅葺中級研修

今年度の茅葺中級研修は、11月25日より大阪府吹田市にある日本民家集落博物館内の「奄美大島の高倉・逆葺」葺き替えを行いました。研修では当保存会 隅田 隆蔵正会員と長野 直人準会員が指導員にあたり、また、奄美より中村 博志氏に外部指導員として来ていただきました。

研修生はいずれも京都からの参加ですが、希少な逆葺の工法について、本土のやり方と奄美でのやり方を同時に学ぶことができ、大変有意義な研修となり、また奄美の中村氏との交流を持てたことは非常に有益でありました。

茅刈り研修は昨年同様、静岡県伊東市の大室山での研



修を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受け、残念ながら実施することができませんでした。

本年度はすべての研修がコロナ禍での活動となり、様々な配慮が必要となりましたが、そんな中でも逆葺研修が行えましたこと、行政の方々、先生方、各関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

貴重な経験の場を後進に繋げたい

指導員 長野 直人

この度の「奄美大島の高倉」研修について、指導員に抜擢されたとき、「ついに念願がかなう時が来た。」と高揚感を覚えた。なぜなら、「奄美大島の高倉」の茅葺工法は「逆葺」であるからだ。私自身、今日まで逆葺の屋根を葺いた経験が無く、写真や聞いた話の中だけでしか逆葺を捉えることができなかった。しかし、この研修でチャンスを得ることができたのは大きな喜びとなったのだ。

研修序盤は隅田氏の指導を主とし、中盤以降は中村氏の指導を主として研修生と共に逆葺を実践したのだが、隅田氏は短い稲藁を用いた逆葺がベースの手法で、中村氏はそれより長いススキやチガヤを用いた逆葺がベースである違いが非常に興味深かった。特に屋根に対する体の立ち位置や役割分担などは、本場の中村氏の手法は大変理にかなっており、耐久性を補う施工の合理化がとても洗練されていると大変感心させられた。

逆葺は真葺と違い、納めた茅がそのまま仕上げとなるため、後の修正がききにくい。研修生は、屋根勾配に見合った納まりにするのに大変苦労したと思う。このあたりは簡素な工法と言われる逆葺においても大変難しく、経験がモノをいうところであった。

逆葺の工法を採用できる物件は、今日の日本において極めて少ない。私個人的な意見として、今後も日本民家集落博物館と屋根保存会が協力して、この「奄美大島の高倉」が後進に逆葺を経験させる貴重な場として存在し続けることを願っている。

最後にこのような貴重な経験を与えてくださった日本民家集落博物館の関係者の皆様、屋根保存会の会長・理

事の皆様、隅田・中村両氏に感謝の意を表し、この経験を後進に伝える責務を果たしたと思っている。

指導できたことが、良い経験に

指導員 中村 博志

今回、奄美から「奄美大島の高倉・逆葺」の技術指導員として参加させていただいた中村です。

最初は私のような者が、技術指導ができるか不安で、辞退しようかと考えましたが、本土の茅葺にも興味があり、いい経験になればと参加させていただきました。今まで本土の茅の葺き方を全然知らず、逆葺という言葉さえも分かりませんでした。話を聞いて奄美の葺き方と全然違うんだなと思いました。

こちらの指導員の方々も、奄美の葺き方を知らないとのことでしたので実演しましたところ、初めて見る葺き方にびっくりされていました。奄美で実際に使っている材料があれば、もっと詳しく説明できたかと思います。

研修生も最初はとまどいながらやっていたのですが、徐々にうまく葺けるようになっていきました。本当は棟の取り付け方も一緒にやりたかったのですが、3日間という短い期間でしたので、やれずに残念です。他の指導員の方に、棟の取り付け方を説明し研修を終了しました。少しでも役に立てたなら良かったと思います。

最終日にフォーラムにまで参加させていただき、安藤先生の貴重なお話を聞くことができ、いい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

これからも奄美で高倉の茅葺の仕事をやりながら、技術の伝承をしていけたらなと思っています。

今後に生かし、腕を磨く

研修生 立脇 裕也

普段とは違う茅の向き、葺き方ということで、今まで経験したことのない未知の世界でした。

いつも下から見て、茅の勾配を確認し叩いて調整するところも、上から見下ろす感じで茅の勾配を決めるというのが新鮮でした。しかし、真葺は先程も書いたように屋根面を叩いて調整しますが、逆葺は穂先が外側になっているため叩けないので、一発で決めないといけないということに慣れるまで時間が掛かりました。

逆葺は、屋根作業をする人、押し茅を固定する人、茅を渡す人、針を屋根裏から刺す人と役割が分担されています。そのおかげで屋根作業の人はそこに集中して作業ができ、また逆葺の特徴の螺旋状に葺いていくというのも相まって非常にスピーディーに進んでいきます。材料さえ揃っていれば、わずか10日程で全ての工程が済むそうです。慣れてしまえば本当にそのくらいできてしまうなど逆葺ならではの役割分担の効率の良さには驚かされました。

また、針受けの際は屋根裏の人が「針」という掛け声で針を出し、屋根にいる人がそこに縄を通し、「トゥー」という掛け声で針を戻してもらい縄を固定するという、これも真葺とは逆の手法を取っていました。屋根裏からは押し茅の位置が分かりづらく、一度針を刺してみないと判断できないので、これも慣れるまで時間が掛かりました。しかし、垂木の間隔の狭い屋根なので、屋根裏から針を刺す方が作業がしやすく、融通も効きやすかったので連携も取りやすかったです。

真葺に比べ厚く葺いてはいけなく、耐用年数が10年と短いですが、作業日程は真葺の半分、もしくはそれ以下です。それを生かして何か新しいことにチャレンジできないか考えられるいい機会にもなりました。今回学んだことを今後に生かしていけるよう職人としての腕を磨いていきます。



違いだけでなく、作り手の想いも学ぶ

研修生 小野 晃徳

今回の研修ではとても貴重な経験を積むことができました。特に、各地域で施工が違うのは棟の取り付けなどが主だと考えていましたが、平葺も施工方法が違っていました。

とても理にかなっていましたが、普段と動きが異なるとスムーズに作業ができませんでした。このような状況で指導員の方はしっかりサポートしてくださり、工程が遅れることのない様にご指導してくださいました。素晴らしい指導員にも認めてもらえる様に、日々精進していく次第です。

また、各部位の名称や針を通す掛け声なども学び、奄美の風景をイメージしながら研修に臨めました。建築する上で作り手の想いがある良い建物が出来ることを改めて感じました。

社に戻り、今回学んだことを生かして今後も仕事に取り組んでまいります。



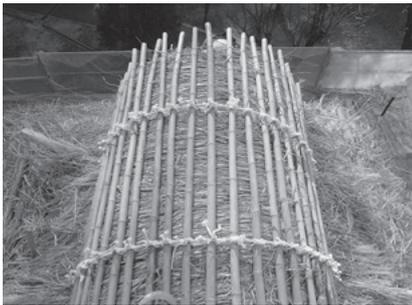


「奄美大島の高倉」
逆 葺



▲葺き替え前

▼葺き替え後



令和2年度 茅葺きフォーラム 開催

期 日 ● 令和2年12月10日(木)
会 場 ● 日本民家集落博物館(服部緑地公園内)
日向椎葉の民家
(大阪府豊中市服部緑地1-2)

令和2年度中級技術研修の期間中に、現場見学及び協議会を開催いたしました。今回「奄美大島の高倉」の葺き替えという、現在日本ではとても数少ない逆葺の工法による研修となりました。選定保存技術保持者の隅田隆蔵氏と、長野直人氏の指導及び、奄美より数日中村博志氏に来ていただき、現地での屋根の葺き方を教わる機会に恵まれ、貴重な経験と知識を頂きました。

協議会では、コロナ禍での開催ということで、限定した規模での開催となりましたが、文化庁はじめ筑波大学名誉教授 安藤邦廣氏、大阪府文化財センター 山城 統氏にお話をいただき、短い時間ではありましたが、活発に議論できたと思います。

元々は逆葺であった屋根を前回工事時に耐久性を重視し、真葺にしたものを、今回また逆葺に戻すということで、様々な議論や手続きがあり、皆で考える機会となりました。長年博物館に勤務しておられた山城氏においては、逆葺に戻せることに感慨もひとしおとの感謝の言葉をいただきました。また研修現場においては奄美の中村氏という現地の職人さんに来ていただき、交流を持てたことは非常に有意義でありました。

職人たるもの実際に見たなら、再現できるスキルを持たなければならない。しかし見たこともない考察だけで地方性に近づくことは難しい。その意味で、今回その地方の職人を招いて指導やお話を聞かせていただけたことは、最大の収穫であったのではないのでしょうか。

希少な屋根の葺き方は、最も伝承の危機にあると言えます。その技術を皆で少しでも共有できたこと大変嬉しく思います。

本年は例年がないコロナ禍での開催にあたり、調整にご尽力いただいた関係者皆様に心より感謝申し上げます。

見学会 「日本民家集落博物館内 奄美大島の高倉」

現場説明 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 隅田 隆蔵 準会員 長野 直人

協議会 「日本民家集落博物館内 日向椎葉の民家」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 大野 浩二

来賓挨拶 ● 日本民家集落博物館 館長 井藤 徹

博物館解説 ● 公益財団法人大阪府文化財センター 山城 統

講 演 ● 筑波大学 名誉教授・一般社団法人 日本茅葺き文化協会 代表理事 安藤 邦廣
題目「南西諸島の逆葺き その系譜と技術的特徴」

討 論 会 ● 議題「希少な素材、葺き方の屋根について」

総 評 ● 文化庁 文化財調査官 結城 啓司

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 副会長 宮川 義史

見学会



葺き替え前



葺き替え後「奄美大島の高倉」

協議会



来賓挨拶 井藤 徹様



博物館解説 山城 統様



講演 安藤 邦廣様



討論会風景



総評 結城 啓司様

■ 準会員

No.	氏 名	職 種
1	青木 照幸	檜皮葺
2	青山 亨	檜皮葺・柿葺
3	朝野 達也	檜皮葺・柿葺
4	芦田 健太	檜皮葺・柿葺
5	蘆田 祐明	檜皮葺・柿葺
6	足立 健一	檜皮葺・柿葺
7	安部 悟司	柿 葺 屋根板製作
8	飯野 映稚	檜皮葺・柿葺
9	池田 陽輔	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
10	井阪 智	茅 葺
11	石井 潤	檜皮葺・柿葺
12	石川 良三	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
13	石塚 健一	竹釘製作
14	井関 善晴	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
15	市原 健	檜皮葺・柿葺
16	一色 律男	檜皮葺・柿葺
17	伊藤 貴弘	檜皮葺・柿葺
18	伊藤 延行	檜皮葺・柿葺
19	伊藤 元輝	檜皮採取
20	伊東 洋平	茅 葺
21	糸賀 一道	檜皮採取
22	井上 裕貴	檜皮採取
23	居原田 浩樹	檜皮葺・柿葺
24	入江 匠	檜皮葺・柿葺
25	岩崎 正	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
26	上野 英樹	茅 葺
27	大崎 悠	茅 葺
28	大西 康純	茅 葺
29	大野 隼矢	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
30	岡 祐紀	茅 葺
31	緒方 伸也	檜皮葺
32	岡野 史和	檜皮葺・柿葺
33	岡本 葉澄	檜皮葺・柿葺
34	奥田 治郎	檜皮葺・柿葺
35	奥田 正博	檜皮葺・柿葺
36	尾崎 良助	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
37	小澤 翔太	檜皮採取
38	方山 和也	檜皮葺・柿葺
39	勝部 哲也	檜皮葺・柿葺
40	包國 眞匠	檜皮葺・柿葺
41	金子 英生	檜皮葺・柿葺
42	上出 健	檜皮採取
43	亀井 輝彦	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
44	嘉本 洋士	檜皮葺・柿葺
45	川瀬 皆人	檜皮葺・柿葺
46	河野 修二郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
47	川原メグスエリオシノイチ	茅 葺
48	菊池 保	茅 葺
49	岸田 智太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
50	岸田 直彦	檜皮葺・柿葺 檜皮採取

No.	氏 名	職 種
51	吉川 圭一	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
52	吉川 晋二	柿 葺 屋根板製作
53	木戸 智裕	屋根板製作
54	木下 和也	檜皮葺
55	木下 真介	檜皮葺・柿葺
56	木村 健太	檜皮葺・柿葺
57	清田 幸臣	檜皮葺・柿葺
58	栗山 光博	屋根板製作
59	栗山 雄二	屋根板製作
60	栗山 芳博	屋根板製作
61	小池 一平	檜皮葺・柿葺
62	児島 真介	檜皮葺・柿葺
63	児玉 典史	茅 葺
64	後藤 哲夫	檜皮採取
65	小西 康介	檜皮葺・柿葺
66	小西 繁信	檜皮葺・柿葺
67	小林 正之	茅 葺
68	小原 一樹	檜皮葺・柿葺
69	駒 宏樹	茅 葺
70	近藤 竜太	檜皮採取
71	酒井 慶伍	茅 葺
72	寒河江 清人	檜皮葺・柿葺
73	佐々木 綾子	檜皮葺
74	佐々木 孝則	茅 葺
75	澤田 昌己	檜皮葺・柿葺
76	塩田 隆司	檜皮葺・柿葺
77	品川 琉心	檜皮葺・柿葺
78	須賀 均	檜皮採取
79	須賀 将志	檜皮葺・柿葺
80	杉井 喜雄	檜皮葺・柿葺
81	杉谷 功	檜皮葺・柿葺
82	高木 諒	屋根板製作
83	大下 倉優	茅 葺
84	高島 優雅	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
85	高平 勝也	檜皮葺・柿葺
86	竹森 暢哉	檜皮葺・柿葺
87	武山 貞秋	茅 葺
88	立木 覚士	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
89	立脇 裕也	茅 葺
90	田中 順也	茅 葺
91	田中 慎一	檜皮葺
92	田中 智紗衣	管 理
93	田中 智也	管 理
94	寺田 美乃里	檜皮葺・柿葺
95	戸梶 憲幸	檜皮葺・柿葺
96	時長 祐貴	檜皮葺・柿葺
97	富田 啓介	茅 葺
98	永瀬 慶祐	檜皮葺・柿葺
99	中西 純一	茅 葺
100	中西 祥也	檜皮葺・柿葺

No.	氏名	職 種
101	中根 悠太	檜皮葺・柿葺
102	長野 直人	茅 葺
103	永原 光敬	檜皮葺・柿葺
104	中村 裕司	檜皮葺・柿葺
105	西 裕之	檜皮葺・柿葺
106	西谷 将太	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
107	西堀 大樹	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
108	西村 聡央	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
109	西村 信生	檜皮葺・柿葺
110	沼澤 修一	檜皮葺・柿葺
111	野谷 嘉邦	檜皮葺・柿葺
112	BAATARSUREN BAT ERDENE	茅 葺
113	橋本 浩太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
114	林 直希	檜皮採取
115	東 友一	檜皮葺・柿葺
116	檜 篤広	檜皮葺・柿葺
117	平田 将大	檜皮葺・柿葺
118	平野 健太郎	檜皮葺・柿葺
119	平野 裕也	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
120	廣内 翔	檜皮葺・柿葺
121	深本 英昭	檜皮葺・柿葺
122	福岡 亮太	檜皮採取
123	藤中 竜也	檜皮葺・柿葺
124	藤原 諒	檜皮葺・柿葺
125	渕上 大輔	檜皮葺・柿葺
126	古川 友喜	檜皮葺・柿葺
127	細見 和希	檜皮葺・柿葺
128	細見 知憲	檜皮葺・柿葺
129	細見 裕	檜皮葺・柿葺
130	堀内 博樹	檜皮葺・柿葺
131	堀江 栄行	屋根板製作
132	本多 亮貴	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
133	毎熊 徳満	檜皮葺
134	楨原 孝宜	檜皮葺・柿葺
135	松田 哲也	檜皮葺・柿葺 茅葺
136	松村 省弥	檜皮葺・柿葺
137	松村 純孝	檜皮葺・柿葺
138	松村 有記	檜皮葺・柿葺
139	三上 昭信	茅 葺
140	三上 直	茅 葺
141	道繁 康	檜皮葺・柿葺
142	三ツ出 俊平	檜皮葺・柿葺
143	緑川 幹雄	檜皮葺・柿葺
144	峰地 幹太	檜皮葺・柿葺
145	宮西 寛	檜皮葺
146	向田 学	檜皮葺・柿葺
147	村岡 伸康	檜皮葺 檜皮採取
148	村上 章浩	檜皮葺・柿葺
149	村上 貢章	檜皮葺・柿葺
150	森 壮馬	檜皮葺

No.	氏名	職 種
151	森山 淳希	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
152	矢野 友則	檜皮葺・柿葺
153	山口 成貴	檜皮葺・柿葺 茅葺
154	山口 宗平	檜皮葺・柿葺
155	山崎 堅登	檜皮葺・柿葺
156	山田 勇生	檜皮葺・柿葺
157	湯田 詔奎	茅 葺
158	湯野 尚一郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
159	吉川 一生	茅 葺
160	吉竹 秀紀	檜皮採取
161	余宮 祥平	茅 葺
162	和田 琢男	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
163	渡辺 昌弘	茅 葺
164	渡部 雄太	檜皮葺・柿葺

(2020.4.1 現在)

京都市東山区清水二丁目 205-5
文化財建造物保存技術研修センター内

 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

手
練

第 16 号

令和3年度 掲載

あ と が き

季節外れの暑さが続いていたかと思えば、一気に季節が進み、朝晩がぐっと冷え込むようになりました。新型コロナウイルスの感染者数は減少し、以前の生活が少しずつ戻り始めているようにも思いますが、社会や暮らしに対する意識の変化をもたらしたコロナ禍は、様々な課題を浮き彫りにしました。

そんな中、コロナ禍での初の国政選挙を迎えます。コロナ禍をきっかけに地域や社会の持続可能性について考えさせられたとき、他人事ではない、自分事として一票の重みを感じているところです。

行事が延期や中止となり皆様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、引き続きご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

まだまだ厳しい状況は続きます。生活習慣を整え、体調を崩さないように十分お気をつけください。

手練

S H U R E N

第 16 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会